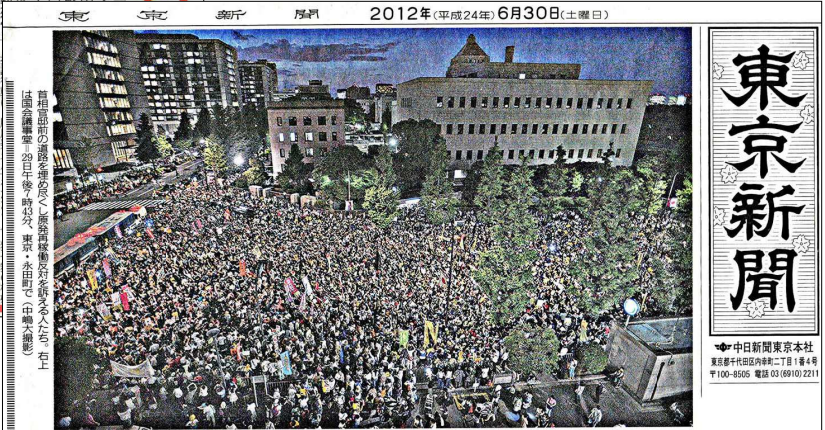


「命よりも金儲け」の原発再稼働に

万人の怒り

動労水戸



労働者の力で 外注化阻止できる時代だ!

国鉄水戸動力車労働組合

水戸市三の丸三・一・三
発行責任者 石井真一 編集者 西納岳史
電話 029・227・6020
FAX 029・227・6291

「現実を変えたい!」
怒りは同じだ!

6月29日夜、大飯原発の再稼働に反対する20万人もの人々が首相官邸前を埋め尽くし、野田首相に「再稼働反対!」の怒りの声を叩きつけました。「原発事故を繰り返すな!」と、命と生活を守るために膨大な人々が行動に立ち上がっています。「命よりも金儲け」の社会の現実には多くの人が怒り、行動を起こす時代が始まりました。強制出向で職場の団結を破壊し、青年の未来を奪い、鉄道の安全を崩壊させるJRの検修・構内全面外注化計画。職場の仲間と乗客の安全を守るため一生懸命働いているJR労働者の誇りは、この20万人の怒りと一つです。動労水戸は、すべての職場の仲間が「外注化絶対反対!」で立ち上がることを訴えます。

外注化は会社の利潤追求で
鉄道の安全は崩壊する!

そもそも外注化の目的とは、経費削減。会社の金儲けのために労働者を切り捨てることにあります。「エルダー社員の

職場の確保」というのは、外注化に反対させないためのごまかしに過ぎません。ギリシャのように国家財政が破たんし、大企業が膨大な赤字を出す世界大恐慌の中、JRもまた「雇用」と「安全」を切り捨てなければ利益を出せない時代なのです。人員と安全にかける経費を削った結果、重大な事故が頻発しています。現状でも外注化が進んでいる総合車両センターで検査を終えた車両の不具合が多いのは周知の事実です。検修・構内業務の外注化が強行されれば、職場はさらなる混乱におちいることは目に見えています。JR発足から実に350人以上の労働者が事故の犠牲になっています。この責任は労働者にあるのでしょうか?すべては外注化を強行してきた会社の責任です。そして、外注化計画を会社と一体になって進めてきた東労組・国

労の幹部の責任です。労働者の力で止めない限り外注化に終わりはありません。会社はどれだけ事故が起ころうが金儲けのために必ずさらなる外注化を強行してきます。金儲けのために労働者や乗客の命と安全が軽んじられることを、労働組合が認めていいはずがありません。

分断を許さず闘う労働組合を
今こそよみがえらせよう!

今回の外注化に関して、会社は「JRから外注会社に労働者を出向させ、プロパー社員(外注会社が雇う労働者)を教育し技術継承させる」と言っています。プロパー社員の育成が終われば賃金が高い出向の労働者は不要となり、かといってJR本体に戻る職場も無いに等しく、結局は外注会社に転籍させられ、外注会社の労働条件で働くことになるのは明らかです。会社は「外注会社の労働条件は外注会社が決めることだ」と言いつて、「JRと同等」の労働条件を保障する気は全くありません。職場の中から「出向ありきの外注化はおかしい」「出向には行きたくない」という意見が出るのは当然のことです。

外注化が強行されれば、全面外注化であれ部分外注化であれ、会社に残れるかどうかをめぐって職場の労働者の中に対立と分断が起こります。同じ職場で助け合って仕事をしてきた仲間同士が、当局の顔色をうかがい、お互いにいがみあう。そんな職場で誰が働きたいと思つてしまうか?何よりも強制出向の狙い撃ちになる青年労働者を守るために、労働組合こそが先頭に立って外注化と闘うことが求められています。職場のつながりと鉄道の安全を守るため、「外注化絶対反対!」で団結して共に闘おう!